

10daysルールとは

現在、八王子市や八王子市周辺エリアで発生した新型コロナ感染症（以下、コロナ）の患者さんは、限られたコロナ対応病院でいったん受け入れ、うち最も重症度の高い患者さんを八王子医療センターに移して集中治療するという「転院のやり繰り」を行っています。

今後、八王子医療センターが、もし重症コロナ患者さんの受け入れを「倍」に増やした場合、それは、他の疾患の三次救急等に利用するICUの病床が「半減」することを意味します。他のコロナ対応病院も同じで、コロナのベッドを増やすと一般のベッドや人員が削減されることになります。

すなわち、地域の医療リソースの「総量」は一定であり、まさに「やり繰り」の世界です。

しかし、八王子医療センターはこれまでも、57万人の市民を、12床の救命救急センターICUでまかなってきた実績があります。次々に入ってくる新しい患者さんのために、急性期を脱した患者さんを、連携病院に順次受け取ってもらう「やり繰り」を、高い医療レベルで行ったことは、まさに「オール八王子の医療連携」の成果でした。

ここで非常に重要なことは、コロナ患者さんは「発症から10日経つと感染性が大幅に減少する」ということです。たとえPCRが陽性であっても、発症から10日経つと感染性は大幅に減少します。PCRの陰性化を待っていると、かえって何週間も退院や転院ができなくなってしまいます（図1、2）。

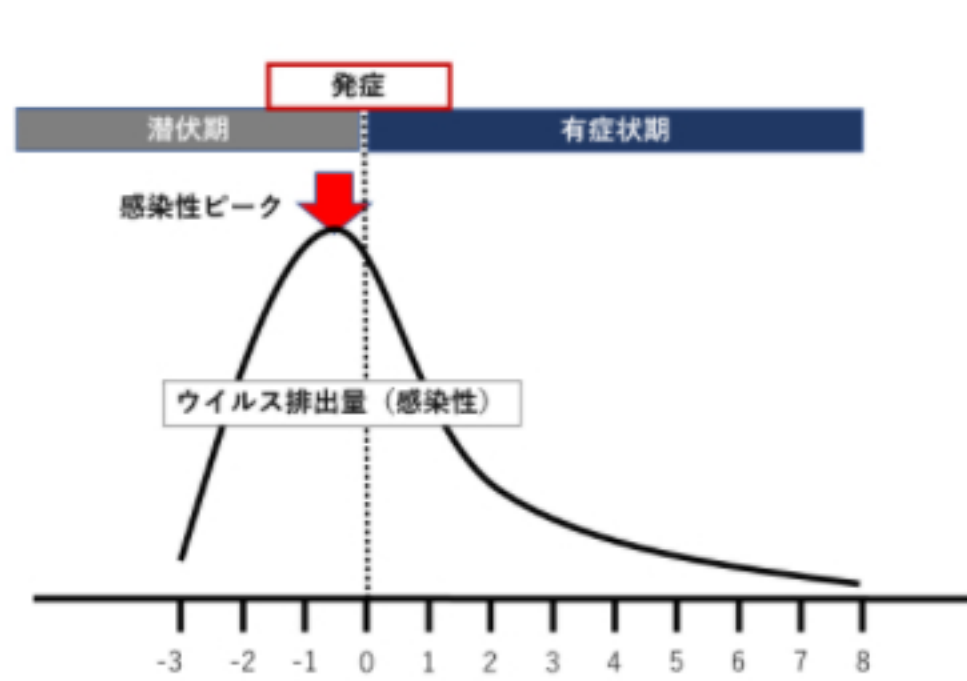


図1：新型コロナウイルスの感染性は10日以内でほぼ消失する（<https://www.nature.com/articles/s41591-020-0869-5>より作図）

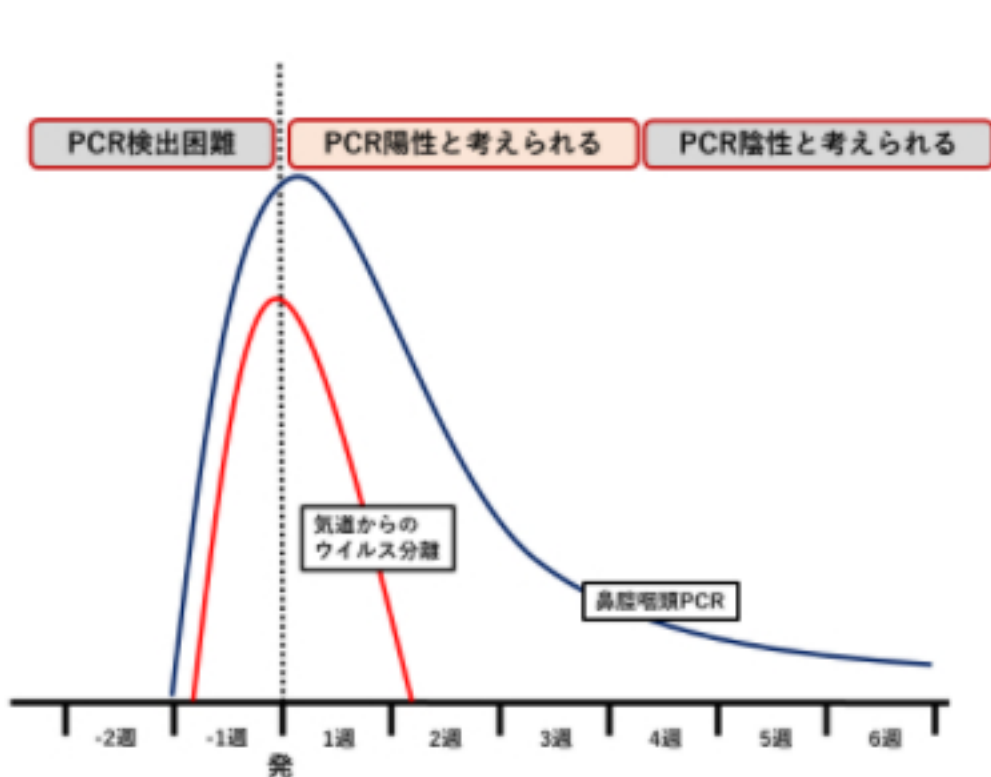


図2：気道からのウイルス分離は10日でほぼ消失するがPCR陽性は3週間以上続く（Nandini Sethuraman, et al. Interpreting Diagnostic Tests for SARS-CoV-2. JAMA. Published online May 6, 2020. をもとに作図）

コロナの感染力は発症の0.8日前がピークとされ、発症8日目以降は著明に低下していると言われています。その後は、ウィルスは排出していても、感染力のある「生きているウィルス」は排出しておらず、感染力のない「死んだウィルス」だけ排出している状況とされています。

アメリカCDCの調べでは、中等症から軽症のコロナ患者さんでは「10日目」以降では、感染力のあるウィルスの検出は認められなかったとされています。すなわち、中等症と軽症においては、発症から「10日」経てば人に感染する可能性はなくなるということです。

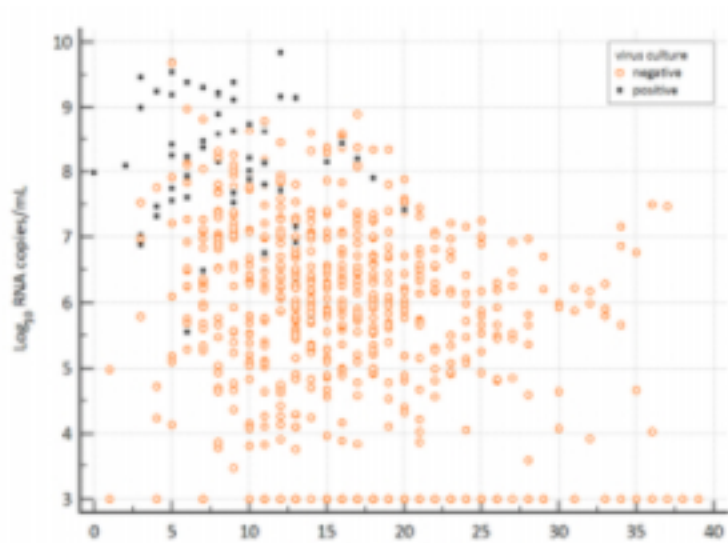
ただし、重い免疫不全の患者さんや、重症・重篤の患者さんにおいては、ウィルスの排出が遅延することが知られています。ただし、それでも10日以降は約90%、15日以降では約95%の人で、感染性のあるウィルス排出がなくなり、20日目を過ぎると100%感染しないとされています（図3）。

重症患者

10日以降で約90%感染しない

15日以降で95%が感染しない

20日過ぎると100%感染しない



Jeroen J.A. June.2020

図3：Jeroen J.A. 2020 より引用

アメリカCDCホームページにも、コロナ対応を「中止」する基準として、“PCRなどの「検査」を利用した中止基準は推奨しない”とあります。あくまで「症状」と「発症からの日数」をもとにして、感染力がほぼ無くなった、とみなすべきと推奨されています。

もちろん、コロナは未知なる部分も多いので100%の安全はありません。したがって、転院の受け入れ後は念のために数日間隔離するなど、各施設の方針に沿った対応をして頂くことになります。しかし少なくとも、多くのコロナ患者さんを、少ないコロナ対応病院で順次受け入れるためには、これまで以上の「連携」体制で、円滑なフロー（転院の流れ）を作り出す必要があるのです。

この「発症10日目以降の転院受け入れ」を、八王子医療センター感染症科の平井教授が「八王子10daysルール」と名付け、Covid-19対応地域連携WEB会議などで推奨したところ、八王子市医師会、病院部会、八王子市高齢者施設長会などがルールの受け入れを表明し、さらに八王子市からの財政支援も発動（別紙参照）されたため、現在のところ実稼働が実現しています。

東京医科大学八王子医療センター

救命救急センター長 新井 隆男

（別紙）

[新型コロナウイルス感染症患者転院受入促進事業の実施について（通知）受](#)

[入先施設宛](#)

